

「くわしい指導の手引き」

《練習の手順 「す」を例に》

① 文字の基本形を絵の中で印象づけ

絵の中の点線（）をなぞって動きをとらえましょう。はじめは指で、慣れてきたらえんぴつを使って書いてみましょう。

② 目だけでなく耳からも

「よこせん、たてくる」と書き順を声に出しながら、指で文字を書きます。少し大きめに、リズムにのせて練習しましょう。

③ 白抜き文字「す」を使って

②を何度か繰り返したら、今度はえんぴつを使って書く練習をしましょう。

④ マスいっぱい

の中に練習するときには、マスの中いっぱいに書くようにします。このときも、書き順を声に出しながらのほうが効果的です。

▽必ずしも順番どおりでなくてもかまいません。子どもが取り組みやすい文字からはじめてみましょう。

《必要に応じて》

例えば、のように点線が入った方が書きやすいこともあれば、のように点線がない方が書きやすいこともあります。以下を参考にそれぞれに合った練習方法をおすすめします。

☆ マスが上手に使えない子には

のように点線を入れるか、書きはじめての点や書き終わりの点をうってあげましょう。

☆ 文字の形が思い浮かばない子には

耳からのヒント

・キーワード（「たてくる」「しっぽ」など）を言ってみましょう。

・「よこせん、たてくる」と書き順を声に出して言うてみましょう。

目からのヒント

・「たてくる」「しっぽ」など文字の一部分を書いてみましょう。
・文字全体を空中または紙の上に指で大きめに書いてみましょう。

▽これらの練習に先立って、文字の中のどこにそれぞれのキーワードの表わす形（「たてくる」「しっぽ」など）が隠れているか、見つけてみましょう。

☆ 迷い筆がある子には

・「し」を「」と左右を逆に書いてしまうなど迷いを見せる子には絵を思い出させてみましょう。「犬はどっちむきだった？」など語りかけてみるのもよいでしょう。
・書きはじめての点や書き終わりの点をうって、えんぴつの動く方向をしめしてみましょう。

☆ 形がうまくとれない子には

・一部のひらがなには、文字の形を単純化した練習を用意しました。正しい字形で練習をはじめてもかまいませんが、子どもたちの中には微妙な傾きに難しさを感じる子もいます。「い」の前に「い」を練習するなどそれぞれに合った方法を工夫してみてください。

☆ そのほかの練習方法

耳や目を使うほかに

・紙ヤスリのようなざらざらしたものの上に指で文字を書き、さわった感覚を使って文字の形、えんぴつの動きをとらえます。このとき目を閉じて練習するといつそう効果的です。
・背中に文字を書いてあてっこをします。このとき「よこせん、たてくる」と耳からのヒントも使ってみるとよいでしょう。
・そのほか必要に応じて、いろいろなヒントを組み合わせてみてください。